

研究テーマ	「材料や用具を活かした表現活動の工夫」 —第2学年「手ぬぐいを染めよう～藍染め～」の実践を通して—
-------	--

潮来市立牛堀中学校 教諭 末光美也子

I 研究テーマについて

この題材では、「藍染め」という伝統工芸にふれる。型糊や刷り込み刷毛など普段使うことのない材料や用具にふれさせることで、興味関心を高めることができると考えた。表現方法を創意工夫することで、表現する技能や、制作の順序などを考えながら見通しをもって制作する技能を育成することができると思う。

II 研究の実際

1 題材名

手ぬぐいを染めよう～藍染め～

2 題材の目標

- 伝統工芸のよさや技に興味をもち、協力して準備・制作・片付けを行うことができる。
〈関心・意欲・態度〉①
- 伝統工芸の技を学び、美的感覚を働かせて構成することができる。
〈発想や構想の能力〉②
- 材料や用具の特性、制作の順序を考えながら、見通しをもって制作することができる。
〈創造的な技能〉③
- 作品を完成させた喜びを味わい、生活の中で生きる伝統工芸の良さを鑑賞することができる。
〈鑑賞の能力〉④

3 題材について

(1) 生徒の実態 (2学年 男23名 女25名 計48名)

○美術の制作において、学習した技術を次回の制作に生かそうとしていますか？			
いつも工夫している	6人	気が付いたとき工夫している	36人
あまり工夫していない	3人	考えたことがない	3人
○ふりかえりカードや予定表を参考に、見通しをもって制作していますか。			
カードに記入するたびに確認している	10人	ときどき確認する	25人
あまり確認していない	13人	予定や計画は考えていない	0人

生徒のアンケートから、学習し身に付いた技術を生かそうとしたり、友達のよいところを取り入れようとする生徒が多い。1年の3学期後半から2年の1学期にかけて制作した切り絵では、真剣に制作し、表現の工夫について話し合う様子が見られた。しかし、制作の見通しを意識している生徒は半数程度である。シンプルな工程ならば、見通しを意識しなくとも完成させることができるが、本題材は、数多くの工程があり制作期間も

2～3ヶ月に及ぶので、順序や工程を確認しながら見通しをもって取り組まないと完成は難しいと思われる。

制作過程においてはグループ活動を多く取り入れ、互いのよさを認め合い、意見を交換して制作に生かせるようにしている。グループ活動の利点を活用し、生徒同士で話し合わせ、工程を確認しあいながら、見通しをたてて制作できるように指導したい。

(2) 題材観

本題材では、伝統工芸の材料や用具にふれ、手ぬぐいの他の作品や切り絵の制作で学習した内容を参考にしながら、創意工夫して表現する技能や、制作の順序などを考えながら見通しを持って制作する技能が高められると考えた。

意図に応じて材料や用具を使い分け、体験として身に付けたことを技能として活用できるようにしたい。

(3) 指導観

本題材は、以前取り組んだ切り絵の基礎技術を生かした発展的な内容である。つまり、基礎的・基本的な知識・技能の定着をはかり、向上させることができる。また、型紙のデザイン・型紙の制作・染色と多くの工程を順を追って制作していくことで、見通しをもって制作することを意識づけられると考えた。グループで準備・片付け・制作する場面も多く、互いの良いところを取り入れながら学び合うこともできる。

4 題材の評価規準

評価の観点	各観点評価基準例 (B 評価)	A と評価する例
関心・意欲・態度	伝統工芸のよさや技に興味をもち、協力して準備・制作・片付けを行うことができる。	自主的に必要な材料を用意し、時間の使い方を工夫できる。
発想や構想の能力	伝統工芸の技を学び、美的感覚を働かせて構成することができる。	独創的な構成を工夫できる。 使用することを考えたデザインを考えられる。
創造的な技能	材料や用具の特性や、制作の順序を考えながら、見通しをもって制作することができる。	材料の特性を効果的に生かすことができる。 創意工夫して感じたことを友達と教え合うことができる。
鑑賞の能力	作品を完成させた喜びを味わい、生活の中で生きる伝統工芸のよさを鑑賞することができる。	自分や友達の制作について、発見がみられる。 自分と職人や昔の人の制作の共通点や相違点を見つけるなど、広い視点から感じ取ることができる。

5 指導と評価の計画（10時間扱い）

関・関心・意欲・態度 発・発想や構想の能力 創・創造的な技能 鑑・鑑賞の能力 【 】・評価方法

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意方法及び評価規準
<p>導入 50分</p> <p>①自分たちの知っている伝統工芸について発表し合う。</p> <p>②藍染め手ぬぐいの作品を鑑賞し、行程を確認する。</p>	<p>●身近なものや実際に使用したことのあるものにも気付かせる。</p> <p>●型染めの制作工程をスライドで紹介し、関心や意欲をもたせる。</p> <p>●昨年度までの参考作品を実際に触れて鑑賞させる。</p>	<p>関</p> <p>鑑</p>	<p>㊦身の回りの伝統工芸品に気付くことができたか。 【発表の様子】</p> <p>㊦使用するときのことを考えたデザインに気付くことができたか。 【発言の内容】</p>
<p>展開1 150分</p> <p>③型紙のデザインを決める。</p> <p>④カッターナイフで渋紙を彫る。</p> <p>⑤彫り上がった渋紙にカシューで紗を張り、型紙を補強する。</p>	<p>●水に強く破れにくい素材の特性を生かし、カーボン紙やトレーシングペーパーは使用せず、模様をデザインする。</p> <p>●繰り返したり反復させたりする模様を考えさせる。</p> <p>●文字をデザインする場合は、反転しないか気を付けさせる。</p> <p>●カシューを扱うときは、換気に気を付けさせる。</p>	<p>発</p>	<p>・自分の表したいイメージを積極的に図案化させる。</p> <p>㊦使用するときのことを考えたデザインを取り入れているか。 【アイデアスケッチ】 【制作の様子】【制作途中の作品】</p> <p>・各工程の手順やコツをポイントとしておさえ、生徒同士で協力させる。</p>
<p>展開2 150分</p> <p>①手ぬぐいに友禅糊をおき、防染したあと乾燥させる。</p> <p>②藍染めする。</p> <p>③洗う</p>	<p>●教師の実演を見せる。</p> <p>●グループで必要な道具を選ばせ、型や道具を協力して準備・片付けさせる。</p> <p>●糊おきしやすい水分量を考えさせる。</p> <p>●参考作品用で試染してみせ、自分だったらどう染めるか計画を立てさせる。</p> <p>●糊がよく落ちるまで水洗いをさせる。</p>	<p>発</p> <p>創</p>	<p>・様々なハケを用意し、自分の表現にあったものを選んで使えるようにする。</p> <p>㊦創意工夫して制作することができたか。</p> <p>・外気に触れさせ、十分酸化させる。徐々に色が変わる様子に気付かせる。</p> <p>㊦制作の順序を考え、見通しをもって制作することができたか。 【制作の様子】【制作途中の作品】</p>
<p>展開③ 3～50分</p> <p>色差し</p> <p>①豆汁を作る。</p> <p>②顔料を豆汁で溶き、色を差す。</p> <p>③アイロンで固着させる。</p>	<p>●大豆を水に浸けてふやかしたものをすりつぶして布で濾し搾り取らせる。</p> <p>●しっかり熱を加え固着させる。</p>	<p>発</p> <p>創</p>	<p>㊦各工程の手順やコツをポイントとしておさえ、生徒同士で協力しながら制作できたか。</p> <p>㊦自分の表現に合う材料を選ぶことができたか。 【制作の様子】【制作途中の作品】</p>

<p>展開④ 3～50分</p> <p>仕上げ</p>	<p>●巾をきちんと出し、スチームアイロンで整える。</p>	<p>関</p>	<p>㊦最後まで根気強く丁寧に仕上げることができたか。</p> <p>【制作の様子】</p>
<p>まとめ 50分</p> <p>鑑賞</p>	<p>●みんなの作品を鑑賞する。</p>	<p>鑑</p>	<p>㊦自分の制作と伝統工芸の共通点や相違点について考えることができたか。</p> <p>【鑑賞カード】</p>

6 指導の実際

指導のポイント

- ・生徒同士が協力し教えあいながら制作するようにする。
- ・自分が発見した工夫を伝え合うようにする。
- ・制作の工程をふまえて、目標を設定させる。
- ・初めて見る道具や行程が多いことと、制作への興味を持たせるため、染色について鑑賞する授業を行う。

型を彫る



○模様をデザインするときに、型がばらばらにならないように気をつける。デザインカッターを使用し、安全に気をつけるよう指導する。

糊を置く

○様々なヘラを用意し、自分の表現にあった用具を選べるようにする。実際に手にとって一番使いやすかったものを使うように指導する。生徒同士で、「このヘラのこんなところを使うとよい」など助言し合う様子が多く見られた。

紗をはる



○カシューを薄め液で溶き、紗をはる。紗は薄く、編み目がずれやすいので、優しく刷毛を動かすように指導する。

○紗に押し込んだカシューを全分な新聞紙で吸い取



染める



○糊がかちかちになるまでしっかりと乾燥していることを確認させる。溶液が酸化してしまわないように、攪拌しすぎないように静かに浸す。

○手や衣服を汚さないように、ゴム手袋やハンガー、汚れてもいいTシャツなどを持参し利用する。

○糊が溶けないように時間を計り、3分程度を目安に染める。砂時計をそばに置いておくと確認しやすい。

色差し



○色差しの時には、アクリル絵の具を少量の豆汁で溶き、準備する。一つの色に一つの筆を準備し、色を変えるたびに筆を洗う手間を省けるようにする。

○色を差さず、紺色と白だけで表現しても良い。進度の違いがあらわれるところなので、行程をふまえ、自分に合った時間の使い方を考えさせる。

○色差しが終わった作品と、紺と白だけで完成の作品は、スチームアイロンをかける。スチームアイロンの熱で絵の具を固着させるよう指導する。布の巾がきちんとそろうように丁寧にアイロンをかけさせるようにする。

発色



○外気に触れさせ、発色させる。染液から引き上げた時の布の色が、酸化するにつれて青く発色していく様子をよく観察させる。

○グループごとに活動させ、意見を活発に交わせるような雰囲気をつくる。発色させている十数分間は、自分と友達の作品を見比べることができる時間である。自分の感想や発見を友達と話し合い、共有できるようにする。染液が手に付くとなかなか色がとれないので注意するよう指導した。藍染め(インディゴ)独特のにおいや、酸化して変化する色合いに驚きながら制作していた。

洗う



○十分発色した後は、水洗いする。糊がきちんと落ちるように流水で洗う。洗った後は形を整えて干す。



Ⅱ
る
様
姿

料や用具にふれ、互いに協力しながら準備や片付け、道具の貸し借りをす
わり合いでは、よりよい用具の使い方を考え出し、創意工夫して取り組む
力が向上したといえる。また、工程を考えながら、制作の目標を設定する
きる生徒も増えた。

ながら制作することを通し、伝統工芸品や昔ながらの技法について理解を
深めることができたという意見が多くあった。当時の生活を想像し、値段を考えたり使用している様子を考え
たりするなど、用途と美しさについて話し合う様子も多く見られた。生徒自身が自ら気づき、考えを深めるこ
とができた題材であった。

課題として、グループ活動が多く、騒がしくなりやすいことがあげられる。落ち着いて取り組めるようグル
ープ分けや役割分担等を工夫して取り組ませたい。また、教師の指導法も工夫改善を図っていきたい。

※参考資料 工芸染色ノート《美術出版社（著：柳悦孝・假屋安吉）》
天然染料の研究講義資料《北澤勇二》
型染め・引き染めの基本《美術出版社》